

欠損駆動思考 — 概要版

棄却される誤差を、問い合わせて拾う

2026年02月07日

目次

1	待つ、ということ	2
1.1	感じたことはありませんか	2
1.2	私たちはふつう、その欠けを消そうとする	2
1.3	待つことで、見えてくるもの	2
1.4	待つには支えが要る	3
1.5	創造は5つの段階を通る	3
1.6	言いたいこと	3

1 待つ、ということ

ビルド日時: 2026-02-07 性格: 読み物（仮説の塊） 温度: ひらめき（大半）

1.1 感じたことはありませんか

何かが引っかかる。言葉にはできないけれど、もやもやする。

会議で誰かが言ったひとことが、なぜか頭を離れない。読んだ本のある一節が、ずっと残っている。友人の表情に、何かが足りないように見えた。

私たちは日々、こうした「ズレ」を感じています。予想していたことと、実際に起きたことが違う。そのとき、心には小さな「欠け」が生まれます。

1.2 私たちはふつう、その欠けを消そうとする

もやもやは不快です。だから、すぐに答えを出したくなる。「たぶんこういうことだ」「気のせいだ」「考えても仕方ない」——そうやって、欠けを埋めてしまう。

でも、ちょっと待ってください。

その違和感の中に、何か大切なものが隠れているかもしれない。すぐに答えを出すと、問題を小さく切り詰めてしまうことがあるように思います。

1.3 待つことで、見えてくるもの

違和感を感じたとき、私たちは二つの軸で評価しているように見えます。

ひとつは「これは危険か？」という軸。もうひとつは「これは誰かとの関係に関わるか？」という軸。恐れと愛、と言えるかもしれません。

この二つの軸が教えてくれるのは、その違和感が自分にとってどれくらい重要か、ということです。

大事な違和感ほど、すぐには解けません。すぐに解こうとすると、浅い答えで終わってしまう。だから、待つことが必要になります。

1.4 待つには支えが要る

ただ、ひとりで待つのは難しい。

もやもやを抱えたまま過ごすのは、心に負担がかかります。答えが出ない状態に耐えるには、どこかに安心できる場所が必要です。

それは、今そばにいる誰かかもしれません。でも、必ずしも物理的にいる人でなくてもいい。

心の中に、信頼できる誰かがいること。亡くなった人でも、昔の恩師でも、過去に出会った誰かの記憶でも。その人が心の中にいてくれることで、私たちは「待つ」ことができるようになります。

物理的にいなくても、心の中にいる人が支えてくれる——そういう経験はありませんか。

1.5 創造は5つの段階を通る

待つことができたとき、違和感は少しづつ形を変えていくように思います。

段階	名前	どんな状態
1	場	違和感のある環境に身を置く
2	波	内面に揺らぎが生まれる
3	縁	異質な人と出会い、留まる
4	渦	新しいパターンが生まれる
5	束	形にまとめる

3段階目の「縁」に留まることが、いちばん難しい。でも、いちばん大切なかもしれません。ここで逃げずにいられると、何か新しいものが生まれてくる。

1.6 言いたいこと

これは、私が自分自身を観察しながら考えてきたことです。全てが仮説です。でも、ひとつだけ確かに思うことがあります。

違和感を捨てないでください。

すぐに解こうとしないでください。体が感じていることに、耳を傾けてください。

そして、待つために、心の中に誰かを置いてください。

あなたの違和感は何ですか？

その中に、何が隠れていますか？